

あいち病害虫情報 最新情報

平成27年11月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

気温がかなり高くなる見込み

名古屋地方気象台11月12日発表の1か月予報によると、向こう1か月の平均気温は、高い確率70%で、降水量は多い確率60%です。日照時間は、少ない確率60%です。なお、気温は、1週目は高い確率80%の見込みで、2週目は高い確率50%、3～4週目は、高い確率50%と見込まれています。

キャベツ、ハクサイの病害虫

フェロモントラップにおけるコナガ、オオタバコガ、ハスモンヨトウの誘殺数はおおむね平年並ですが、10月が高温少雨で推移したため、一部地域では、ハスモンヨトウの誘殺数が11月以降急増しています。11月中下旬も平年に比べ気温が高く推移する見込みですので、引き続き、ほ場での発生状況に注意して防除しましょう。なお、コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避けましょう。また、コナガが発生しているほ場では、収穫後は速やかにすき込みましょう。

キャベツやハクサイでは、菌核病が発生する時期です。発病株は直ちに抜き取ってほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。なお、本病の病原菌は多くの植物に感染します。菌核病が発生している地域では、他作物での発生にも注意しましょう。

ハクサイでは、アブラムシ類の発生がやや多い状況です。今後も気温が高く、発生に好適な気象条件が予想されていますので、ほ場での発生状況に留意して防除しましょう。

果菜類の病害

果菜類の灰色かび病やトマト葉かび病、トマトすすかび病は、施設を密閉し施設内の湿度が高まる11月中下旬頃から発生が多くなります。積極的に換気や送風を行って、多湿にならないようにしましょう。また、発病部位は速やかに取り除き、適切に処分しましょう。

トマトでは、草勢が衰えると、葉かび病やすすかび病の発生が助長されます。温湿度管理とともに、生育に応じた肥培管理にも注意しましょう。

イチゴうどんこ病は、多発生すると防除が難しくなるので、初期防除に努めましょう。また、窒素過多は発生を助長しますので、適切な肥培管理に努めましょう。

イチゴのハダニ類

ハダニ類の発生量が多いほ場があります。ハダニ類の防除では、ミツバチや天敵への影響を考慮して薬剤を選定しましょう。気門封鎖型農薬を積極的に活用し、同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。天敵を利用する場合は、導入前に防除し、ハダニ類の密度を下げてから放飼しましょう。防除対策については、10月2日発表の「平成27年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

キュウリの黄化えそ病

キュウリ黄化えそ病の病原ウイルス(MYSV)は、ミナミキイロアザミウマにより媒介されます。本虫の防除を徹底するとともに、発病株は抜き取り適切に処分しましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820